

# 鐵道省東京改良事務所々管工事概況

鐵道省東京改良事務所長

井 上 隆 根

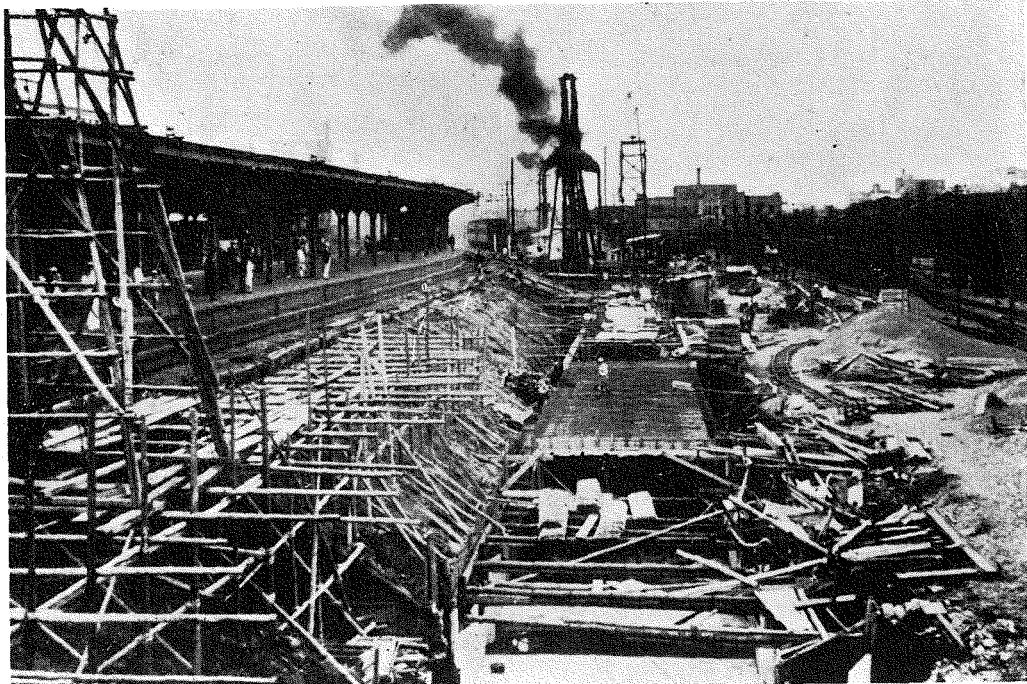
## 目 次

- 1 緒言
- 2 東海道線改良工事並に新橋驛附近地下鐵道工事
- 3 總武線改良工事(以下二月號)
- 4 中央線改良工事並に武藏境變電區受電所新設工事

## 1 緒 言

東京改良事務所の工事は現在東海道線改良工事、總武線改良工事、中央線改良工事、武藏境變電區受電所新設工事、東京高速鐵道會社委託に依る新橋驛附近地下鐵工事、其の他

(1) 東京驛構内荷物地下道の工事向ひに見える黒煙と櫓は場所打鐵筋コンクリート杭打機。



である。

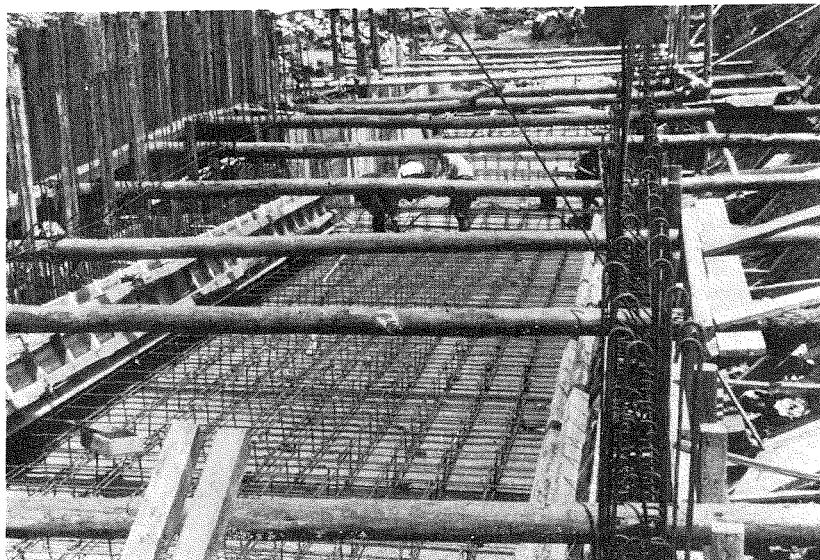
而して之等は何れも東京附近の發展に伴ひ能力の低下を來したる輸送施設の改大革を成すものである。

以下之等工事の概況に就いて記述せんとす

## 2 東海道線改良工事並に新橋驛附近地下鐵道工事

帝都の表玄關であり、東海道線の始發驛であり、且つ鐵道輸送の心臓部である處の東京驛の行詰りの打開の急務なる事は、數年來呼ばれ來たれる問題である。

漸く今回三千数百萬圓を投じて東京驛を中心



(2) 東京驛構  
内荷物地下  
道(U型部)  
基礎スラブ  
鐵筋組立

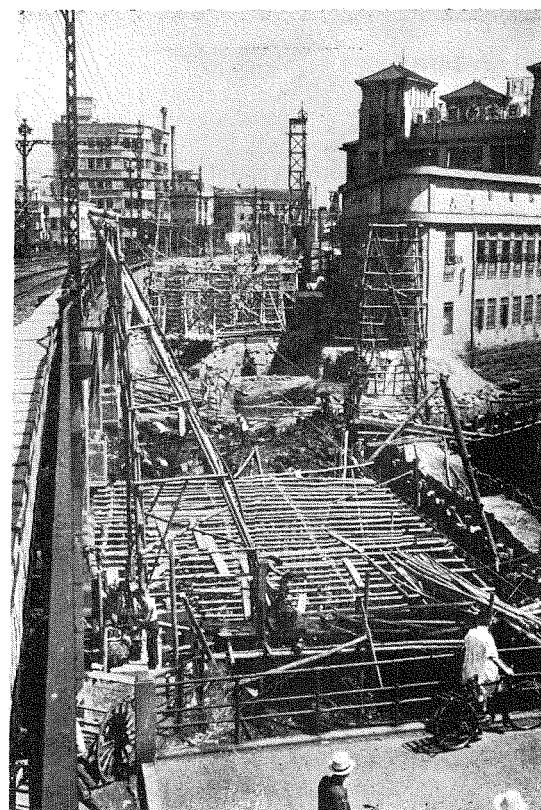
心とした東海道線輸送施設の改良がなされる事に成つのである。

東京驛は電車の著發1日2000回、列車の著發二百數十回に達し、春秋夏季に於ける臨時増發の際は甚しく施設の狭隘、輸送の困難を感じる状態にあるので在來4本のホームに更に長300米の高架式ホーム3本と小荷物専用ホーム1本を増設するのである。

之に從つて現在本屋裏にある客車操車場は品川驛貨物操車場跡に移される事に成り、品川貨車操車場は先に新設せられた新鶴見操車場に移されたのである。

尙現在のクラシツリな煉瓦造りの東京驛本屋に對稱して外濠八重洲橋に面した位置に鐵骨鐵筋コンクリート造りの近代的大本屋を建設し、旅客との接觸面を倍加するのである。

東京品川間は現在4線あつて列車、横須賀電車2線、山手、京濱各電車に2線何れも併合運轉であつて混雜時に於ける列車電車の運轉は何れも殆ど最大密度と云ふ可く、而も定員の2倍以上の乗車率を示してゐる現状である。今回2線を増設して6線となし、増設線2線は列車専用にあて、

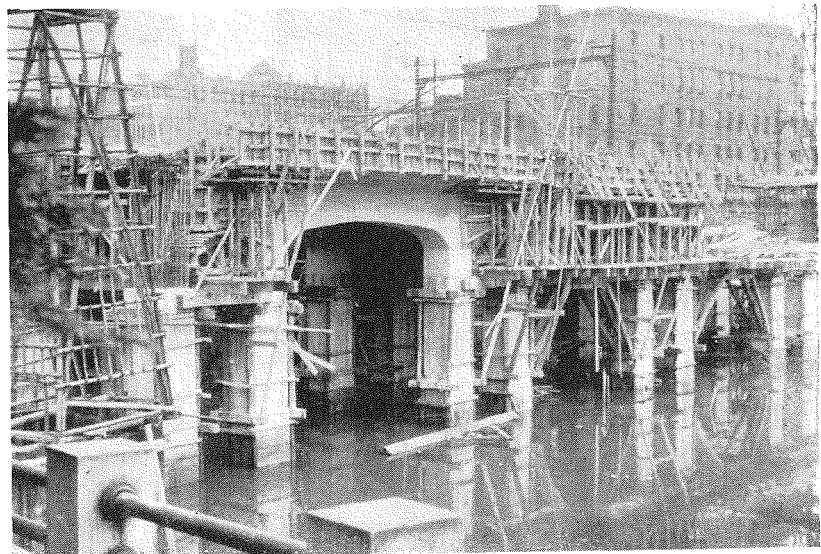


(3) 東京一品川間二線増設工事の内山下橋上よ  
リ第一有樂町橋作業場を見る。



(4) 第三有樂町  
橋(四柱式)。

(5) 内幸町ス  
ラブ橋。

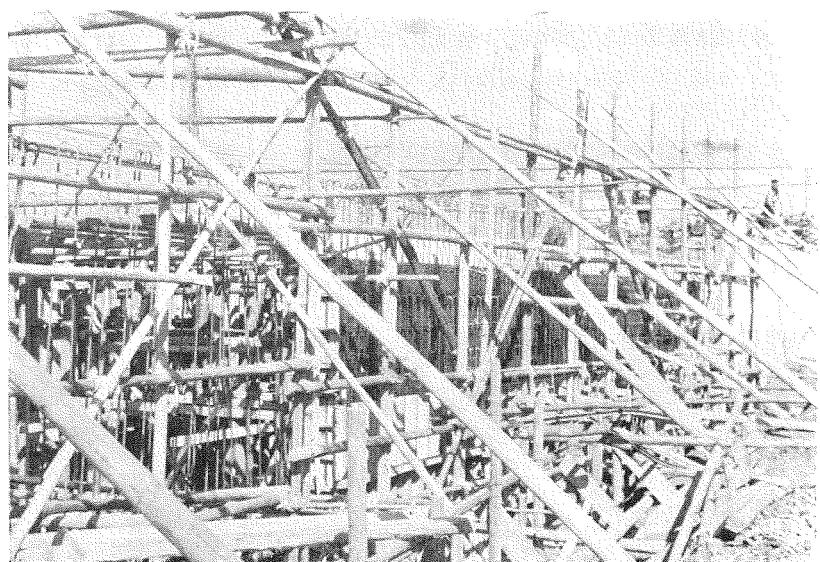


残<sup>4</sup>線は方向別運転とし其の間横須賀及京濱急行電車を運転する計画である。

本區間の鍛冶橋架道橋より汐留架道橋に至る1千800米間は高架式鋼筋コンクリートスラブ橋であつて、現在線の東側に單線式複線式及び三線式等各様式各種徑間のラーメン橋が施工せられてゐる。

汐留架道橋より田町驛に至る2千500米間は

一部増用地を除く外は線路兩側の用地を利しコンクリート土留擁壁による盛土區間である。中間各驛の設計中、有樂町驛には電車ホーム1本を増設し、在來同様南北二ヶ所を出入口となし、新橋驛には列車ホームを増設し在來列車ホームは電車ホームに改裝し、地下鐵との連絡部分の改築を行ひ、又濱松町驛には電車ホーム1本を新設し在來ホームは移轉



(6) 芝浦跨線々  
路橋側面配筋



(7) 芝浦跨線々  
路橋入口スラ  
ブ受支保工。

改築するのである。而して濱松町架道橋側一部をスラブ橋となし驛本屋を其の下に新設せんとするものである。

濱松町田町間には延長96米の芝浦跨線々路橋が出来、横須賀線が山手京濱の下り電車を乗越す立體交叉がある。然してこれより以北が方向別運轉と成る譯である。

次に新橋驛附近省線二葉架道橋下に東京高

速鐵道會社の委託による地下鐵道工事を施工中である、之は日下同會社施工の濱谷新橋間の一部であり省線との連絡箇所と成るものである。

品川驛の改良は旅客設備として乗降場を増設し、又舊貨車操車場跡及び8萬平方米の増用地を含む大客車操車場を新設する外貨物の配線整備並に横須賀線電車庫の移轉等を含むも

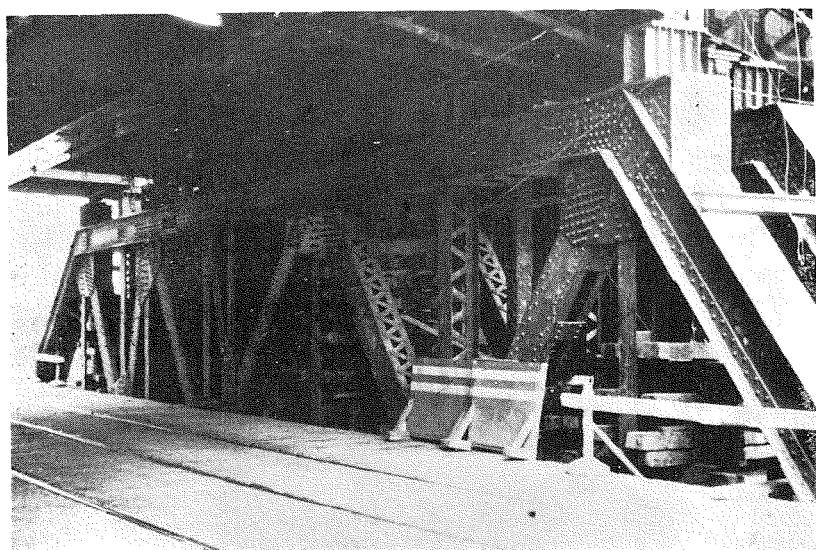
のである。

今回旅客乗降場を二本新設し在來の四本のホームも之を改築し、その着發線も大部分變更されるのである。

之等の著發線と田町驛の著發線との間には

在來の京濱線電車乘越線路橋の外新に横須賀線電車及び京濱上り急行が上り列車線及び下り京濱線を乘越す複雑なるY字型ラーメン構造の跨線々路橋が新設されるのである。

尙現在の本屋に終端を持つ京濱電鐵會社の



(8) 新橋驛附近  
二葉町架道橋  
下地下鐵新設  
工事省線鉄桁  
假受トラス

(9) 地下鐵坑  
内掘鑿土留  
狀況。

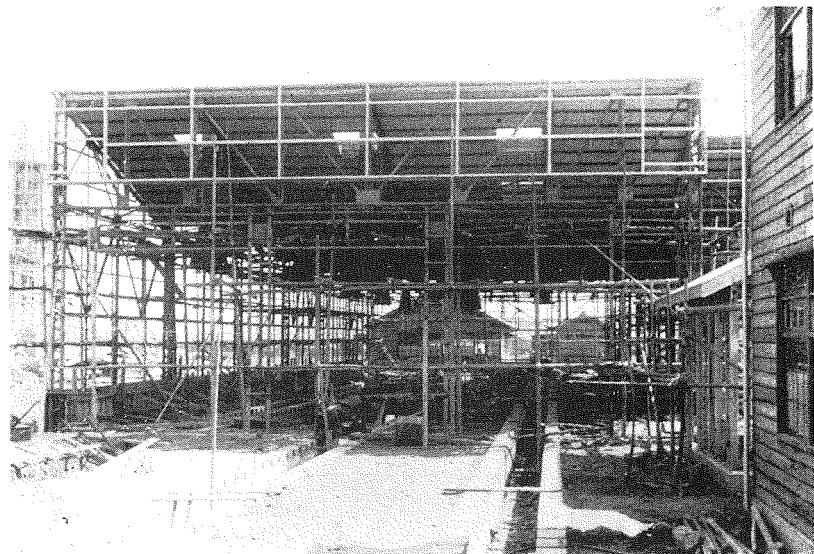


高架線は本屋裏沿ひに延長され札の辻附近にて地下に入り新橋に於いて高速地下鐵道と連絡する計畫があり、之に伴ひ品川驛本屋も鉄筋コンクリート造のものに改増築される事に成つて居る。

品川驛全般の改良工事は構内作業の變更と之れに伴ふ線路切換により數回に分ちて施工せられるもので目下客操關係のみ盛に工事中である。

(以下次號)

(10) 品川機庫屋  
板蓋並に壁張  
(石綿波形ス  
レート蓋)



(11) 品川驛構  
内洗濯場側  
面。

